はじめにお読みください

NEC

Startup Guide

スタートアップガイド

856-128261-303-00　2010年4月　初版

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意　-必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警　告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注　意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧で、アース付きのコンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください(ご注文の構成により、下記以外の添付品が同梱されている場合があります)。

- 本体
- 電源コード　2本
- フロントベゼル
- セキュリティキー(フロントベゼル内側に貼り付けられています)
- ソフトウェアパッケージ一式(バックアップDVD*1含む)
- 「EXPRESSBUILDER」DVD*2
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)
- スライドレール(アウターレール)取り外し工具

重要　添付のバックアップDVD、インストール/初期導入設定用ディスクは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

*1　バックアップDVDの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2　EXPRESSBUILDERパッケージの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップDVDの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルで、次のHTMLファイルから表示させることができます。

<バックアップDVD>:/nec/doc/manual.html

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな?」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント　PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Reader 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。
製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます。
「PCサーバ　サポート情報(http://support.express.nec.co.jp/pcserver/)」

3 ラックを設置する

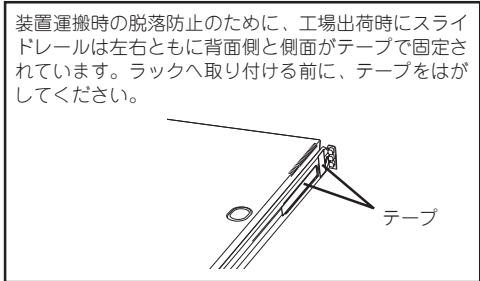
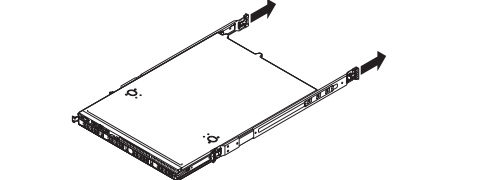
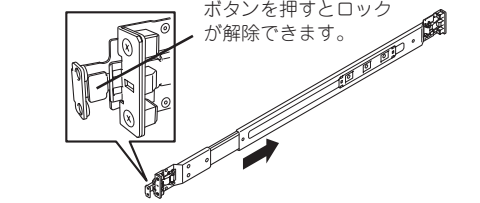
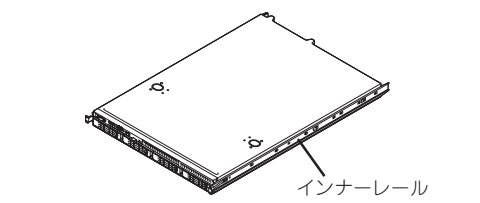
本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要　ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

4 本体を設置する

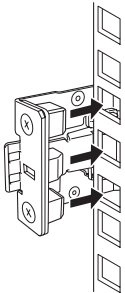
本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイド(ハードウェア編)の2章を参照してください。

重要　ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付ける前に、テープをはがしてください。

1 本体左右に取り付けられているスライド式のレールアセンブリを取り外す。

2 本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールアセンブリを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせる。

レールアセンブリを取り外すと、本体はネジ止めされたインナーレールのみが取り付けられた状態になります。

取り外したレールアセンブリは、この後の手順(レールアセンブリの取り付け)で使用します。

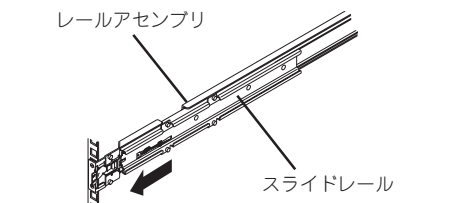
レールに指を挟まないよう十分注意してください。

3 取り外したレールアセンブリをラックへ取り付ける。

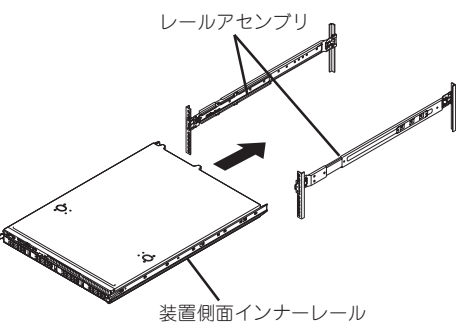
レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付けます。この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。

前図は右側(前面)を示していますが、右側(背面)、左側(前面/背面)も同様に取り付けてください。
もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。

レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

4 左右のレールアセンブリのスライドレール(ベアリング部)を手前に引き出す。

5 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

左右のレールアセンブリに本装置側面のインナーレールを確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり、装置を固定できます。

レールで指を挟まないよう十分注意してください。

差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。

設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

6 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

以上で完了です。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイド(ハードウェア編)の2章を参照してください。

重要
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- LANポート1を必ず運用時のネットワークに接続してください。初期導入のセットアップでは、LANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)を使用してセットアップを進めます。LANポート2(eth1)は初期導入のセットアップを完了後、Management Consoleの[システム]→[その他]→[ネットワーク]で設定できる拡張用ポートです。
- システムが割り振るLANポート番号(eth n・n=数字)は次のとおりです。

オプションのNICなし
- eth0: 1
- eth1: 2

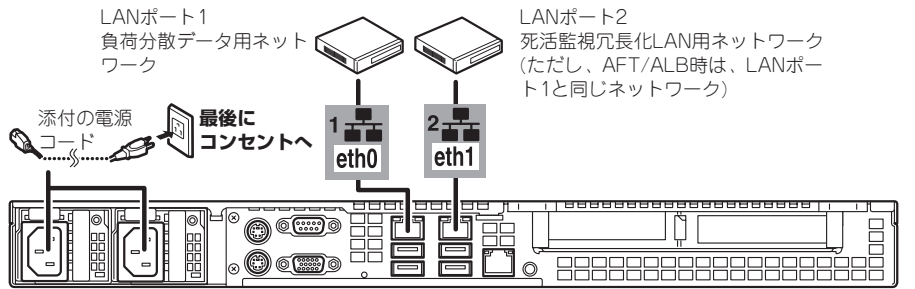
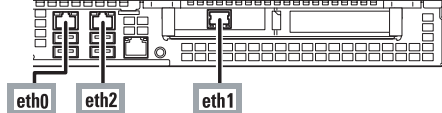
オプションのNICあり
- eth0: 1
- eth1: オプションのNIC A
- eth2: 2

LANポート1
負荷分散データ用ネットワーク

LANポート2
死活監視冗長化LAN用ネットワーク(ただし、AFT/ALB時は、LANポート1と同じネットワーク)

添付の電源コード

最後にコンセントへ

1 eth0　2 eth1

オプションLAN

6 LB400gをセットアップする

本装置を負荷分散装置として起動させるために最小限必要となる環境を構築します。WindowsクライアントPC(WindowsXP以降が動作する環境)を用意してください。詳しくは、ユーザーズガイド(ソフトウェア編)の「初期インストール」を参照してください。

1 WindowsクライアントPCを準備する

本装置が提供するWebインタフェースによる初期導入設定を行うため、本装置と同じネットワークのIPアドレス(例えば、192.168.250.1/255.255.255.0)を設定した WindowsクライアントPC(以下、クライアントPCと記述します)を用意してください。

メモ：本装置の初期状態のネットワーク設定は以下のとおりです。

LANポート番号	：eth0
IPアドレス	：192.168.250.250
ネットワークマスク	：255.255.255.0
ホスト名	：intersec.domain.local

- ハブ環境を介して接続する
ハブに本装置とクライアントPCをそれぞれストレートケーブルで接続します。

重要　本装置とクライアントPC以外の機器は接続しないでください。

- 本装置に直結する
本装置とクライアントPCをクロスケーブルで接続します。

2 クライアントPCと本装置を起動する

本装置とクライアントPCをLAN ケーブルで接続した後、電源を入れてください。本装置の起動後、背面の「LINK」ランプが点灯しているか確認してください。
起動後、クライアントPCのコマンドプロンプトからping コマンドなどを使用して通信状態を確認してください。
[実行例]
C:¥> ping *192.168.250.250*(■)
(■)斜体部分は、本装置のIPアドレスです。
本装置と通信できない場合は、クライアントPCのネットワーク設定やLANケーブルの接続などを確認してください。

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

6 LB400gをセットアップする(続き)

3 本装置の初期導入設定ManagementConsoleに接続する

クライアントPCのInternet Explorerから以下のURLを指定して、本装置のManagement Consoleに接続してください。

http://192.168.250.250:50453/

正常に接続されると「Management Console」のログイン画面が表示されます。

ユーザ名、パスワード入力画面が表示されます。

"ユーザ名(U)"、"パスワード(P)"に以下を入力して、[OK]をクリックしてください。

ユーザ名(U)　：root
パスワード(P)：システム管理者パスワード(*)

システム管理者のパスワードは、『管理者用パスワード』に記載されている「出荷時の管理者用パスワード」を入力してください。

4 初期導入設定を実行する

❶ 初期導入を開始する

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。[開始]を押下し、初期導入を実施します。作業を中断したい場合は、[中止]を押下してください。

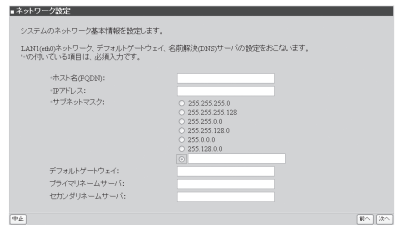
❷ システム管理者を設定する

ここでは、システム管理者に関する設定を行います。システム管理者のアカウントは"admin"(固定)です。システム管理者用のパスワードを「パスワード」「パスワード再入力」に入力して[次へ]をクリックしてください。システム管理者名のパスワードの指定は必須です。

メモ：システム管理者のアカウントは、セットアップ完了後システム管理者ManagementConsole画面で変更できます。

❸ ネットワーク情報を設定する

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

「ホスト名(FQDN)」、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「プライマリネームサーバ」、「セカンダリネームサーバ」に設定内容を入力し、[次へ(N)] をクリックしてください。

項目名	設定内容
*ホスト名	本装置のFQDNを設定します
* IPアドレス	本装置のIPアドレスを設定します
*サブネットマスク	ネットワークマスクを設定します
*デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します
*プライマリネームサーバ	プライマリネームサーバを設定します
セカンダリネームサーバ	セカンダリネームサーバを設定します

※項目名の先頭に '*' があるものは必須入力です

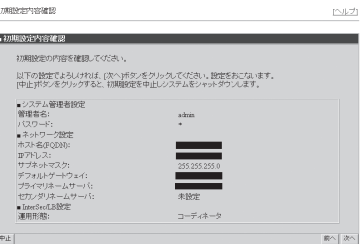
❹ Express5800/LBの運用形態を設定する

本装置のシステム構成に関する設定を行います。本装置2台を二重化(フェイルオーバー型クラスタ構成)にする場合は一方を[コーディネータ]、もう一方を[バックアップコーディネータ]として選択してください。

1台で構成する場合は、[コーディネータ]を選択してください。設定を終了後、[次へ]をクリックしてください。

なお、「システム構成設定」は、Management Consoleの「システム」アイコン→「LB基本設定」で変更できます。

❺ 初期導入設定内容を確認する

前項までの初期設定内容を表示します。設定内容に間違いがないか確認してください。表示した設定内容でよければ[次へ]をクリックしてください。設定内容を変更する場合は[前へ]をクリックしてください。

❻ システムを再起動する

初期導入設定が完了すると、システムの再起動画面を表示します。続けてシステムの運用設定を行う場合は[システムを再起動する]をクリックしてください。システムを停止する場合は[システムを停止する]をクリックしてください。

7 システムにログインし、各種設定を実行する

初期セットアップ完了後は必ずManagement Consoleに接続してシステムの初期化完了を確認してください。完了後、本装置の詳細な設定や管理は、管理コンソール「ManagementConsole」画面で行います。

1 管理クライアントのWebブラウザから以下のURLに接続します

クライアントPC上でWebブラウザ(Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6.0 SP2以上)を起動します。Webブラウザの設定では、プロキシを経由しないで接続してください。

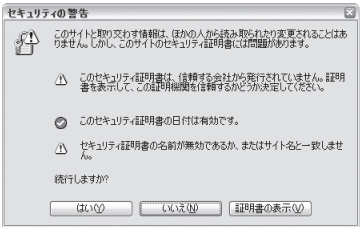
https：//本装置に割り当てたFQDN：50453/

または

https：//本装置に割り当てたIPアドレス：50453/

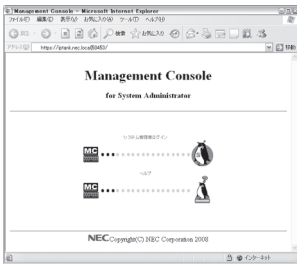
URLに本装置のFQDNを指定する場合は、管理クライアントで名前解決ができることが必要です。

2 管理コンソールにログインする

前述のURLにアクセスすると「セキュリティの警告」画面が表示されますが、問題はありませんので、続行してください。

InternetExplorer6の場合

InternetExplorer7の場合

InternetExplorer8の場合も同様です

管理コンソールのログイン画面が表示されます。"システム管理者ログイン" をクリックしてください。

ユーザ名、パスワード入力画面が表示されます。「ユーザ名(U)」、「パスワード(P)」に以下を入力して、[OK]をクリックしてください。

ユーザ名(U)：admin
パスワード(P)：システム管理者パスワード(*)
(*) 6項の4-❷で設定したパスワードです。

Webブラウザに表示された画面から各種システムの設定ができます。詳しくは、ユーザーズガイド(ソフトウェア編)を参照してください。

3 管理コンソールへの初めてのログイン

「ManagementConsole」に初めてログインした場合、以下の「操作結果通知」画面が表示されます。本画面が表示されて本装置の全ての初期導入が完了したことになります。画面のメッセージ従い、[戻る]をクリックしてください。

管理者用のトップページが表示されます。

8 ESMPRO/ServerAgentを設定する

本装置の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベント通知先)を行います。

詳しくは、バックアップDVDに格納されている『ESMPRO/ServerAgentユーザーズガイド』を参照してください。

<バックアップDVD>:/nec/doc/400/esmpro.sa/lnx_esm_users.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては、罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

バックアップDVDをPC等に挿入したまま再起動するとインストール処理が実行されます。利用後は、必ず取り出してください。

9 管理コンピュータにESMPRO/ServerManagerをセットアップする

ESMPRO/ServerManagerを利用することで、本装置をネットワーク上から監視、保守をおこないます。ネットワーク上の管理コンピュータに、本装置添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに含まれているソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」をインストールしてください。「ESMPRO/ServerManager」は、管理コンピュータのDVDドライブに「EXPRESSBUILDER」DVDをセットすると表示される「オートランで起動するメニュー」からインストールできます。
詳しくは「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている『ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド』を参照してください。

以上で完了です。